

資料 1

CAP 活動の実効性向上に向けて

令和 4 年 6 月 28 日

原子力規制庁核燃料施設等監視部門

1. はじめに

新検査制度の開始に伴い導入された核燃料施設等の CAP 活動の状況に関する担当規制事務所へのアンケート結果によれば、一部の検査官から以下のコメントを受けている。

- ・品質保証委員会で実施、事務局がまとめた資料を確認するだけの場に見える。活発な活動状況とはいえない
- ・CAP を開始してから時間がたっていないため、まだ不適合管理と CAP がなじんでいないのでは
- ・予定していた CAP 会議が延期されたことが多く、会議の効果は薄いと感じた
- ・現場作業責任者もどのような事象を CAP に挙げるのか殆ど不明な状況ではないかと思える

2. CAP 活動に対する事業者の受け止めとご要望

- ① CAP 活動を行ううえで、これではダメだと感じた活動事例を教えてください
- ② どのような活動が優秀であるのか、見解あれば示してほしい。また、その判断に検査官で統一性があるのか伺いたい
- ③ 原子力規制検査において、CAP 情報のインプットの件数が少ないことを以て、CAP 活動が低調であるような印象を持たれるケースが見受けられる。不適合の発生件数の増減の傾向、取り扱っている CAP 情報の質等を踏まえて、事業者の CAP 活動の有効性を評価すべき
- ④ CAP 活動については今後も経験を重ねて必要に応じて改善しながら進めていく必要がある。そのため、研究炉や核燃料施設ばかりではなく CAP 活動を精力的に行っておられる電力会社の情報について今回のような意見交換の場などを通じて提供してほしい
- ⑤ 動きのある事業所にとっては、日常的に色々と改善情報等が挙がり、CAP 活動は有意義なものと考えているが、活動がほとんどない（廃止措置施設等の廃棄物の管理が主な施設）施設においては、施設が静的状態であることから業務改善内容を見いだすことが逆に難しく、悩ましい時がある。その場合、どのような視点に切り替えて業務改善内容を見いだしたらよいかアドバイスがほしい

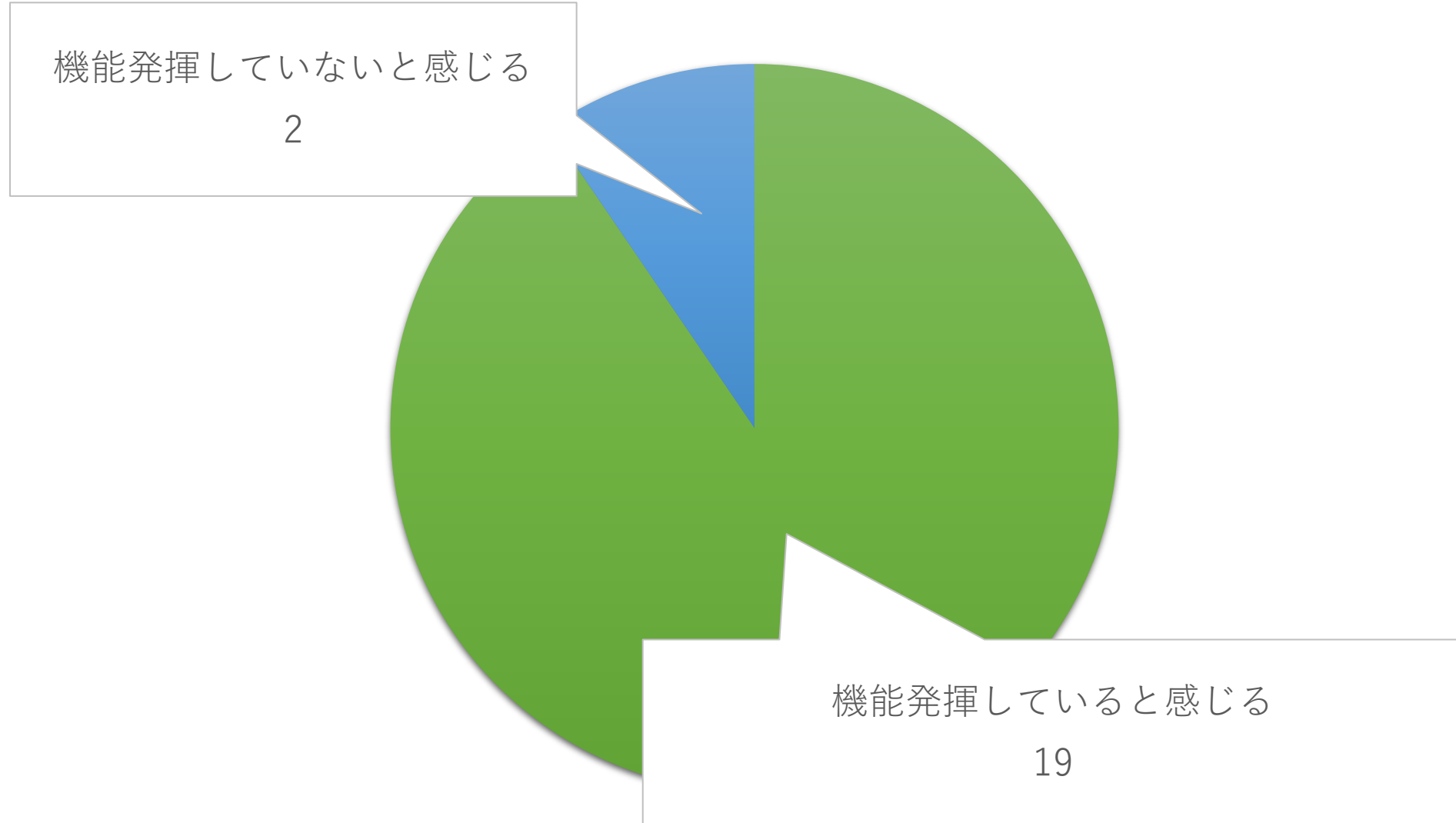
3. 改善に向けた進め方(案)

- ・本年度の意見交換会のメインテーマとして、毎回議論する
- ・他施設（発電炉）へのベンチマーク及び意見交換の場を設定する
- ・アンケートで CAP 機能が発揮できていると回答された事業者とそうでない事業者との意見交換が密に行えるよう働きかけを行う
- ・その他

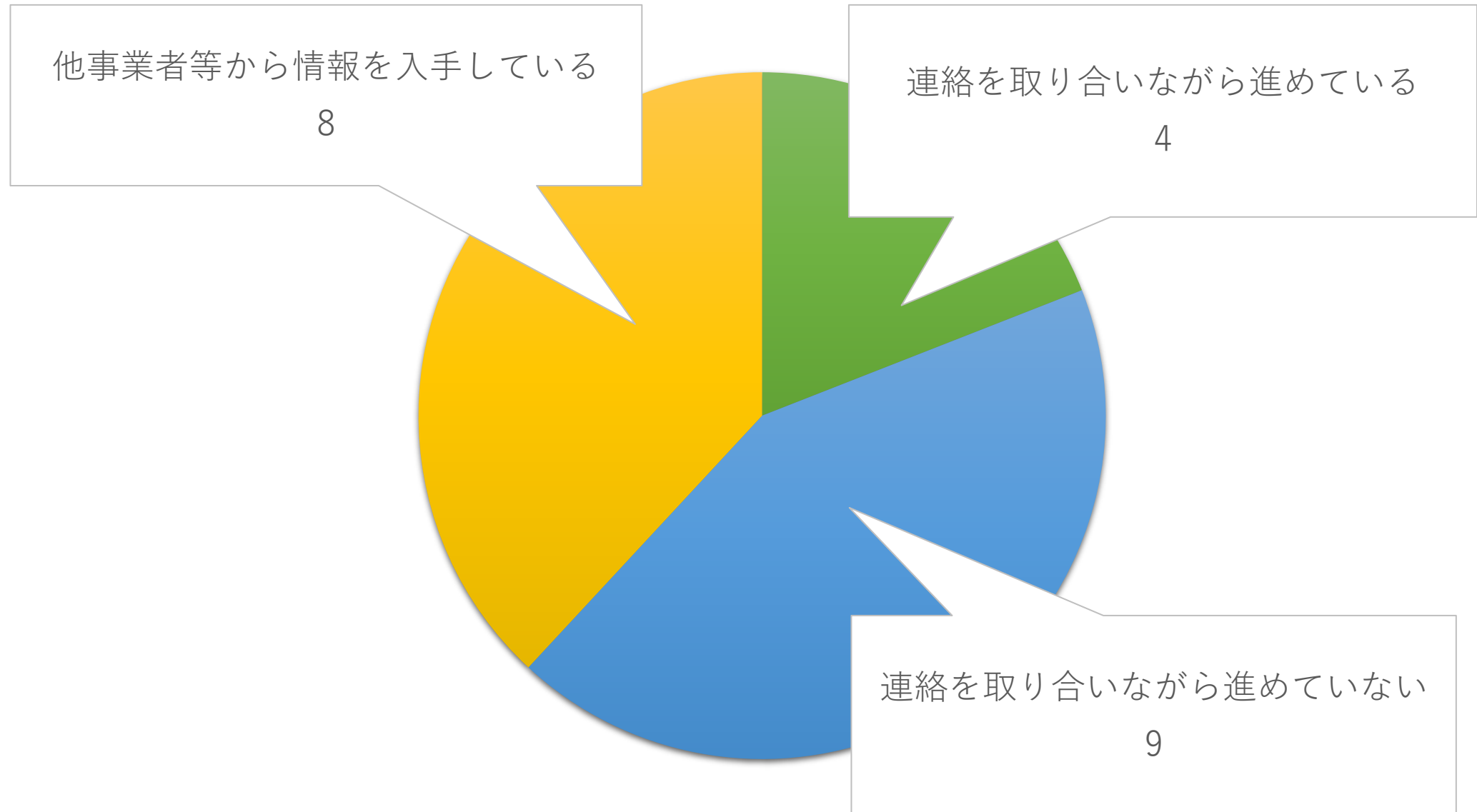
(参考：電気事業者のCAPの目的)

	CAPの目的等	出典
ATENA	<p>発電所における重要な問題のみならず、安全確保につながる些細な気付きを拾い上げるために、低いしきい値で広範囲の情報を収集し、安全への影響度に応じた是正を行うことにより、重要な問題の再発防止や未然防止を図ることを目的として、各社でCAPシステムの充実を図っている。</p>	<p>CAPシステムに係る検討状況について 2019年5月27日</p>
東北電力	<p>(1) CAPの目的</p> <p>○「不適合その他の事象」の情報を広く集め、原子力安全に影響を与える問題を適切に捉え効果的な対策を講じるため、CAP (Corrective Action Program) を実施する。</p> <p>○CAPを推進することにより、重要な問題の再発防止を図るとともに、問題の傾向を把握し、パフォーマンスに重大な影響が発生する前に劣化兆候や課題等を発見・検知し、未然防止を図る。</p>	<p>CAPシステムの運用状況について 2022年3月29日</p>
関西電力	<p><u>取り組みの目的</u></p> <p>発電所における安全上の問題を見逃さないために、低いしきい値で広範囲の情報を収集し、安全への影響度に応じた是正を行うことにより、重要な問題の再発防止や未然防止を図る。また、発電所の資源を、安全上重要な問題に集中させて、効果的に活用することにより、プラントの安全性の更なる向上を目指すことを目的とする。</p>	<p>関西電力の取り組み～全体概要およびCAP～ 2019年7月5日</p>
九州電力	<p>(2)CAP導入による利点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務主管としての固定観念や既成概念にとらわれて潜在的リスクを見逃す可能性が低くなり、更なる安全性の向上につながる。 ・原子力安全に影響を及ぼす重要な問題に、重点的に対応することで、発電所の資源を有効に活用することができる。 ・気付き事項をCAP情報として一括で管理しているため、発電所全体の状況を把握しやすくなり、処置を確実に実施することができる。 ・CAP情報を活用して新たな改善の機会に繋げることができる。 	<p>改善措置活動(CAP)の運用状況 2021年6月4日</p>
日本原子力発電	<p>④是正処置プログラム (CAP) の改善</p> <p>【取組内容】・コンディションレポート (状態報告：CR※) 収集の試運用を2018年10月から開始・抽出された課題を検討し、CAPの運営改善に反映 (改善1) CR処理の効率化、(改善2) 本店関与の強化</p> <p>※CR (Condition Report) 本来あるべき状態とは異なる状態、実施すべき行動から外れた行動や結果、気づいた問題、要改善点等を提案又は記載した報告書</p>	<p>安全性向上の取組みについて 2020年1月29日</p>

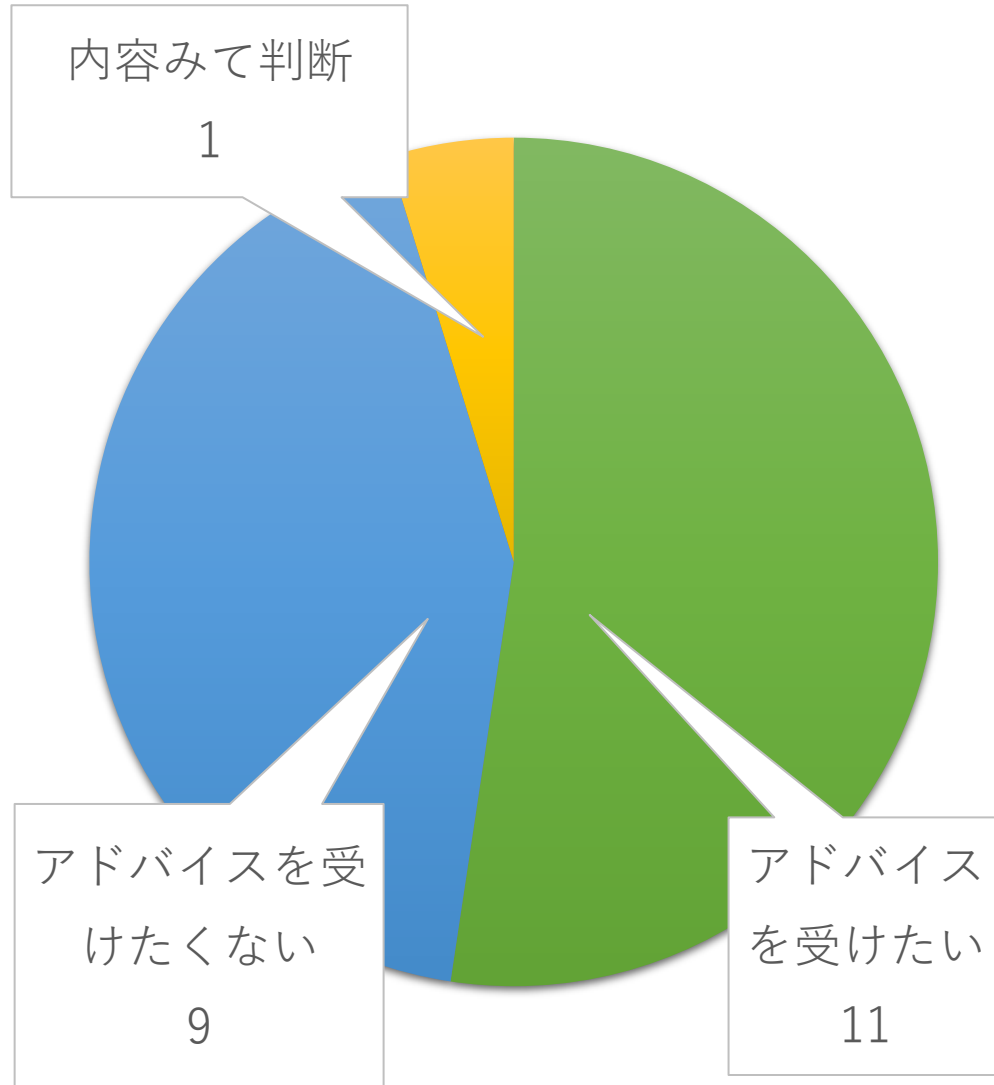
新検査制度導入後約 2 年が経過しましたが、C A P 活動は施設の規模や状況に応じた機能を発揮していると感じているか



他の事業者と連絡を取り合いながら、C A P 活動の改善を進めているか



電力会社では、電事連が中心となってCAP活動の導入に関するアドバイスをを行ったと聞きましたが、現時点においてこのようなアドバイスは受けていますか



具体的にどのような点についてか

- どのようなCR情報の分析が有効なのか知りたい
- CAP活動について電力会社とのギャップ（情報入手の仕組み、気付きのインプット方法等）を直接確認したい
- 保守管理に係るCAP案件が少ないので、どうしたら増やせるか
- 他施設でのCAP活動の全体像。規模、事業内容が大きく異なりますが、CRの積極的な提案の取組、CAQ判定の考え方
- 他事業所でのCAP活動の正味の実態
- 日常的に上がってくるCR等の情報のまとめ方とそのさばき方
- CRの具体的な内容、CAQの判定結果
- CAPとすべき情報とスクリーニングの仕組み
- 問題の除去や原因の除去の方法、核防護防護に関する情報の扱い方など
- 使用施設で同じようなレベルの運用となるようアドバイス
- 施設特性に応じたCAPのあり方等（例：運転中/廃止措置中でのリスクに応じた運用）